

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

2020 年 2月 4日

三田市議会議長 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	田中一良	印
		議員名		
派遣者氏名	田中一良			
視察先及び 調査事項 (調査目的)	加古川中央市民病院 公立病院と民間病院の再編・統合等について			
日 時	令和2年2月3日(月曜日)			
視察先対応者				
(調査結果の概要及び所見) 別紙でも可				
別紙				

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

令和2年2月4日

田中一良

加古川中央市民病院 視察の傍聴における所見

本視察は、市民病院あり方特別委員会の視察であり、傍聴として参加させていただいたものであります。

加古川市民病院が新臨床研修医制度の影響を受け、内科医師数の減少が続き、平成16年には14名いた内科医が、平成21年7月には、1名にまで減少した。

神戸大学医局との協議の中で、同大学が医師派遣している神鋼加古川病院の施設の老朽化問題があり統合再編案が出た。加古川市へ本物件を有償譲渡となった。

- 経営統合 ⇒ 地方独立行政法人化
- 経営統合から6年後を目途に600床規模の新統合病院へ病院統合(2病院を1病院へ)

本視察は、民間病院と公立病院との統合であるが、三田市の状況とは相当の違いがあることが判明した。

民間病院の老朽化・撤退等の要因が、スムーズに統合ができた。

しかしながら、加古川市民病院の内科医の急激な減少という事象は、三田市民病院でも起こりえる事象ではないかと考える。

三田市民病院では、「断らない救急」を実施していただいているが、医師の疲労も相当であると考ええる。

医師数の増加は、負担軽減となる。

三田市民病院の統合等については、早い段階での統合等後の病院の規模や時期等について発表することが、若手医師の増強につながるものである。

加古川中央市民病院は、財政面でも好転している、また専攻医の増加もでき反対に増えすぎてお断りしているようである。

医師数・看護師数・診療科増等は、統合の結果でるとのことであった。

三田市もスピーディーに進めるべきであると考えます。

加古川市民病院機構の取組み 官民の経営統合から病院統合へ

地方独立行政法人 加古川市民病院機構

東播磨医療圏域の概況

項目	内容
構成市町	明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町
面積	266.40km ² (県総面積の3.2%) (H26.10.1現在)
人口	714,587人 (H26.10.1現在)
医療施設数	病院40、一般診療所536、歯科診療所339 (H27.4.1兵庫県調べ)
医師数	医師1,376人 (人口10万人当たり192.1人、全県241.6人、全国241.9人) ※厚生労働省「平成26年医師、歯科医師、薬剤師調査」
病床数	6,236床 (一般・療養の合計、H27.4.1)

